

和泉市市民活動推進支援事業支援対象団体エントリーシート

令和7年9月30日

和泉市長 あて

団体名 特定非営利活動法人
こどもNPOセンターいずみっ子

代表者名 弓削 任代

所在地 和泉市府中町1丁目10-3
第2泉洋ビル202号室

電話番号 0725-45-0659






和泉市市民活動推進支援金の交付を受けたいので、和泉市市民活動推進支援金交付要綱第7条の規定により、関係書類を添えて、支援対象団体の募集にエントリーします。

事業名	おもしろ体験型市場「こども市」
申請コース	(1) 公益活動支援コース <input type="checkbox"/> チャレンジコース <input checked="" type="checkbox"/> ステップアップコース (2) 地域活性化コース <input type="checkbox"/> 地域活性化コース
事業費総額	112,200 円 (うち、対象経費 112,200 円)
支援金 交付申請額	56,000 円

1. 添付資料

- (1) 団体概要調書（様式第2号）
- (2) 規約、会則又は定款及び役員名簿の写し
- (3) 事業計画書（様式第3号）
- (4) 収支予算書（様式第4号）
- (5) その他市長が必要と認める書類

団体概要調書

フリガナ	トクティヒエイリカツドウホウジン コドモエヌピーオーセンターイズミッコ		
団体名	特定非営利活動法人 こどもNPO センターいずみっこ		
団体の目的	子どもたちの豊かな子ども時代を保障し、子どもも大人も育ち合える地域づくりを目的とし、乳児から青年までの成長を見通した各々の世代の体験の場と、異世代の交流の場を創造し、地域社会の発展に貢献する活動を継続して実施する。		
市内事務所の所在地	〒594-0071 和泉市府中町1丁目10-3 第2泉洋ビル202号室 【 <u>専用事務所</u> ・ 住居と兼用 ・ その他（ ）】		
	電 話	0725(45)0659	FAX 
フリガナ	ユゲ タダヨ		
代表者氏名	弓削 任代		
連絡先 ※この申請について 問い合わせをしたと きに対応できる方	(連絡責任者氏名)※		電 話 
	フリガナ 		FAX 
	(住所) 上記事務所以外に資料送付を希望する場合はご記入ください。		
設 立 年 月	活動開始 1993年10月 法人格取得 2004年10月	主な活動地域	和泉市内
会報等の発行	<u>有</u> (年12回発行) ・ 無	会員数	140人
メールアドレス			
ホームページ	https:// izumikko.org/		
主な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援事業 ・ 子どもの体験活動 ・ 異年齢交流活動 ・ 鑑賞活動 ・ 講演会、講習会の実施 		
主な活動の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ こどもキャンプ(7月・2泊3日) ・ 演劇体験ドラマスクール月2回実施 ・ 「何でもありコンサート」開催(12月) ・ 和泉市子育て支援地域拠点施設事業 ・ 和泉市子育て学習機会提供事業 ・ 親子クッキング ・ 鑑賞活動 ・ ファミリーサポート事業 		
国・府・市及び 各種団体等から の他の補助金及 び委託実績 (過去3年間の 実績を記載)	年度	名称	金額(円)
	R4年度	文化庁 ARTS for the future2!事業 子どもゆめ基金	460,000円 300,039円
	R5年度	輝け!子どもパフォーマー事業 子どもゆめ基金	300,000円 278,547円
	R6年度	和泉市青少年自主活動支援補助金事業 子どもゆめ基金	100,000円 498,750円

※この内容は、和泉市のホームページ等で公表します。

事業計画書

1 事業名	おもしろ体験型市場「こども市」
2 申請コース	(1) 公益活動支援コース <input type="checkbox"/> チャレンジコース <input checked="" type="checkbox"/> テップアップコース (2) 地域活性化コース <input type="checkbox"/> 地域活性化コース
3 事業の必要性（※別紙添付可）	
① 事業を実施する前提となった問題点、課題、社会背景等	
<p>子どもが主体となって社会や地域へ参加する機会が少なくなり、異年齢との接点が減っている。また、仲間と協働する体験も貴重なものとなっている。</p> <p>加えて、大人側へも地域社会で子どもを育む動機を促したい。</p>	
② 事業を実施することにより達成しようとする目標、期待される効果	
<ul style="list-style-type: none"> ・実際の金銭の流通を組み入れることにより、子ども自身が出店者としてブースを管理する責任と、必要性を自覚する。 ・仲間と協力することの大切さを体験する。 ・働くという未来体験につながることを期待する。 ・様々な年齢の人と接することを体験する。 	
4 事業内容（※別紙添付可）	
①問題点、課題を解決するためにどのような方法を用いてどのような事業を実施しますか。	
<p>子どもたちが、自由な発想で自分たちの店を出して運営し、マーケットを形成する。そこで仲間と協働すること、様々な年齢の人と接することを体験する。</p> <p>店の運営やこども銀行業務など、子どもたちが働く体験をする中で責任を担う設定が随所にある。出店参加者、学生スタッフ、大人スタッフ、来場者のすべてが、「こども市」を形成する一員である。子どもたちのはつらつとした元気な姿、一生懸命な姿に触れることができ、地域社会で子どもの育みを行う必要性を実感してもらえらる取り組みである。</p> <p>昨年からの課題には、銀行員ボランティアの学生の応募が少ないことへの対策があげられる。今年も急増は望めないと考えられ、募集先の拡大の可能性を検討、模索していきたい。</p> <p><対象の子どもたちの年齢について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・出店：多くは小学生。低学年は保護者のサポートを必要とするが、高学年になると自分たちでやりとげる姿が見られる。その中に幼児のいる店や中高生の店も存在する。 ・銀行員：小学校5年生～大学生で構成し、サポートにはおとなが入る。 <p><事前の打合せについて></p> <p>当日に集まって店を運営するだけではなく、事前に説明をきいて、他の店を知って、他者への対応を学んでと、子どもたちのより積極的な参加を助けるべく、事前の会議を設定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出店説明会：出店希望の子どもたちに、必ず参加してもらう。「こども市」の在り方、銀行・来場者・店の関係、運営するうえでの注意点などを知ってもらう。 ・店長会議：すべての店の店長が集まり、自分たちの店についての簡単なプレゼン、当日の店の場所の決定を行う。知らない人たちの前で話す、場所の決定についての交渉など、子どもたちにとって日頃とは異なる体験となる。 ・銀行員会議：銀行員が集まり、共に働くメンバーの顔合わせ、銀行の役割や当日の流れや仕事といったことを理解し、実際に集金や計算の練習を行う。 ・ビジネスマナー講座：銀行員を対象に、元銀行員の講師のもと、接客の心得や店への集金時の注意点など、当日の子どもたちの動きに沿って学ぶ場となる。 	
②実施期間（日時）	2026年5月10日(日) 開店 10:30～12:30
③実施場所	エコールいすみ アムゼ広場（雨天時は通路）
④主な対象者	小学生以上の子ども

⑤参加予定者数	出店参加：50～100名
⑥告知方法	チラシ（和泉市内全小学校へ配布、公共施設への配架、等） 和泉市広報誌掲載、まNAVI掲載、いずみっ子のHP掲載
5 事業スケジュール	
次期（月）	内容
2～4月	スタッフ募集、出店者募集、出店説明会、スタッフ・音響技術者打合せ、 店長会議
5月	銀行員会議及びビジネスマナー講座、現地下見、確認 こども市当日8：00スタッフ集合、10：30こども市開店 12：30閉店 13：00かたづけ、14：00スタッフ解散
6 審査項目からみた事業の自己PR ※要綱別表第2審査基準参照 (実施事業について、どういう点が優れているかなどを審査項目ごとに記入してください。)	
① 公益性	子どもにとっての豊かな環境の創造は、地域及び社会の重要な課題である。当事業は、広く市民を対象とし、子どもに着目した活動を提案するものであり、子どものみならず、関わるおとな、とりわけ主体的に子どもの活動へ参加する機会が少ない若い世代への働きかけがある。毎回多くの来場者があり、子どもたちの輝く姿を目の当たりにする、地域のおとなの満足げな姿も多い。出店の条件は子どもが含まれていることのみで、障がいの有無等、他の要因は問わない。また、段差の少ない広場での開催は、誰でも分け隔て無く参加、及び来場が可能な事業となっている。
② 継続性	子ども自身が得る達成感や充足感は、子どもと保護者の幸福な原体験となり、社会を形成する市民が、次の世代においても子どもの主体的な活動の継続を願う動機を生むことを狙う。 経験した子どもたちには躍動感や次回への希望を持つ様子がみられ、また、来場した多数の市民が子どもたちの活躍に臨場する機会となり、新たな波及効果についても期待する。 子どもの頃にこども市を経験し、青年となって今度はスタッフとして子どもたちのサポートをする会員もいる。楽しい体験が年代を超えてつながるのを実感する。 財源確保については、常に市民活動の課題ではあるが、自主財源に頼る部分が多い。多方面との連携情報の収集により補いたい、難しいのが現状である。
③ 実行性	未来に繋ぐ子どもの交流体験を目的とする当事業では、当日を迎えるまでの過程において、子どもと直接会っての説明会、子ども店長が集結する店長会議など、子どもの参画を促す仕組みを重視する。 団体構成員は、子どもの体験交流の経験年数を有する者が多数在籍し、対応を担い、子どもたちの安全を守りつつ自主性を重んじ、多くの異なる年齢の人たちと関わる活動を可能とする。 経費については、適切な予算を申請するとともに、費用対効果の観点から、必要最小限の費用をもって最大限の成果が得られるよう努める。
④ 協働性	子どもの交流体験に注目した当事業を実施する過程において、出店する子どもたちは独自の発想を持ち寄り、話し合いや工夫を重ね、仲間や家族と協働する魅力と成長する自身への魅力を実感し、関わるおとなをも魅了する。加えて、次世代を担う若い世代の参画など、幅広い世代の活躍の場面があり、地域社会の成長へと繋がるものと期待する。
⑤ 公開性	和泉市広報誌、まNAVI及び当団体のHPに掲載。出店募集、開催のお知らせと2回チラシを作成し、和泉市内小学校全児童へ配布。及び公共施設へも配架する。また、地域の学生に向けてもスタッフ募集のチラシを作成し声をかけていく。 ボランティアの学生にとっては、日ごろ接する機会の少ない、幅広い年齢の子どもと接するという貴重な体験となると自負する。
⑥ 発展性 (先駆性・展開性) (集客性)	子どもの参加を募集する市場体験は各地で散見されるが、当事業のように子どもたちが発想から運営まで主体性を持って活動し、当日以外にも会議を持つという形はまだまだ少ないと感じている。参加した多くの子どもたちは「またやりたい」という感想を持ち、子どもたちの躍動感や次に繋がる想いを感じる。 当日は多くの親子連れが来場し、また商業施設での開催であることから、買い物についての市民も足を運び一生懸命に働く子どもたちの姿や声に接する機会となる。

	また、昨年試みた銀行の設置場所を今年も同様にするこゝで、参加者や来場者の利便性が上がり、「こども市」の一体感の浸透に繋げると確信する。
--	---------------------------------------------------------------------

※この内容は、和泉市のホームページ等で公表します。

様式第4号（第7条・第15条関係）

収支予算書

事業の名称： おもしろ体験型市場「こども市」

1. 【収 入】

（単位：円）

項 目	金 額	積算根拠
支援金	56,000	和泉市市民活動推進支援金
事業収入	10,000	参加費（100円×30人） 出店者からの協力金
自主財源	46,200	団体会計より
合 計	112,200	

2. 【支 出】

（単位：円）

費 目	金 額	積算根拠（数量、単価等）
報償費	20,000	ビジネスマナー講師謝礼、音響技術者謝礼
旅費	15,000	講師交通費、スタッフ交通費
消耗品費	45,000	文具、用紙、インク、テープ類、ビニール袋 保健用品（絆創膏、熱中症対策等）
食糧費	7,200	スタッフ飲料代 （180円×40名＝7,200円）
印刷製本費	23,000	チラシ（A4 カラー10,000枚） カラーコピー
役務費	2,000	有料指定ゴミ袋、郵便料金、保険代
合 計	112,200	
対象経費	112,200	

※費目は、別表第3（第10条関係）に記載されているとおりに記載してください。

※実績報告書の提出時に収支決算書とともに領収書等を添付する必要があります。

※この内容は、和泉市のホームページ等で公表します。